



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

生きるという事の大切さを考えてみた。

はっきり言って、若い頃にはあまりその様な事を考えた事はなかった。

ただひたすらに、今だけをどう食って行くかという事だけを考えていた。先の話などは頭にも浮かばなかったのだ。

そんな私でも、格闘技の試合をしていて4回の集中治療を受け、

三途の川を4回見てきてからは考えが変わってきたのかも知れない。

人の命は、時にはあつと言う間に失われる事もある。

それでも私は生きている。と言うよりも生かされているのだ。

この平成の時代に小さな事でもいいから、何かを残し、

次の時代にバトンタッチをして行かなければならないのではないかな。

それを常日頃から考えるようになったのは、平成武師道を始めてからだ。

この会を始めて、武士道を学び、日本の歴史をも学ばなければならなくなった。

すると面白い事に、次には人の生き方を学ぶようになっていた。

もし我々が鎌倉時代に生まれていたら。

戦国時代、江戸、明治、昭和の戦乱の世の中に生まれていたらどうだったのだろう？

そんな事を考えてみるだけ無駄だ、ナンセンスだという人もいるだろう。

確かに、“もし”という事はないかも知れない。

しかし、現実には過去はあったのだ。

そして、多くの命が現在の平成の時代を築いて来たのだ。

我々、平成の時代に生きている者達はこれで良いのだろうか？

前の時代に生きてきた人達に笑われないだろうか？

次の時代の日本史の授業で、平成の時代はぐうたらな時代だったと馬鹿にされないだろうか？

もちろん多くの平成人は、今を生きる事だけで精一杯だと言うかも知れない。

しかし、本当に精一杯生きているのだろうか？

自分の成功は自分のもの。自分の失敗は他人のせい。

それは今の時代に限った事ではないだろうが、あまりにそれが目立ち過ぎる。

またやる気がない人達も目につき過ぎる。

平成は無責任、無気力の時代だと言われても仕方が無いだろう。

私自身も偉そうに言えるほど大した事はない。

ただ生きている限りは、何かをして、何かを残さなければならぬのではと考え、少しでも行動をしようとしている。

生きている事の大切さを真剣に考え、己を見つめ、周りを知り、何か少しでも幸せを見つけ、

幸せを作っていく事が“生きている”という事なのではないだろうか。

人は必ず死を迎える。

だからこそ、決められた時間の中で精一杯、生きて行きたい。

ようやくそう思える時がやって来て、そう思える同志が集まって来た。

この先、何が出来るかは分からないし、どうなっていくかも分からない。

ただ、小さな幸せを作って積み重ねていく事が、必ず形になっていく事は断言できる。

その為には、精一杯生きて行く事から始めるしかないだろう。

良い方向を考え、学び、行動に出る。

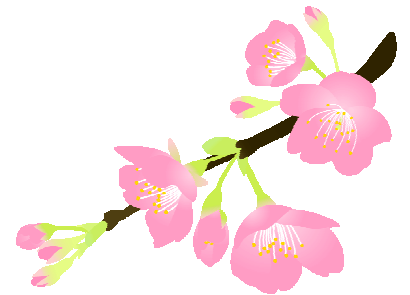
それが生きている者達の最低限の役目だと思う。

苦しい事も楽しい事も全て生きているから感じられるのだ。

生きている事の大切さ。

改めて気付いて良かったと思う。

この大切さをバトンタッチしていきたい。



佐々木